

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月 1日

事業所名 スタジオそら鷺沼

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	7		部屋の大きさによって定員を設けている。	
	②	職員の配置数は適切であるか	6	1	療育準備から療育後の記録まで、適切に対応できるようにしている。	時間割変更後に増員必要。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	導線を考えた構造化を意識している。スケジュールの提示については、一人一人に合わせて対応している。	エアコンのスイッチが1つのため、各部屋の温度環境を整えるのが困難。(現在ひざ掛けや、サーキュレーター等を導入している)
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	6	1	日々の掃除だけでなく、週一大掃除を設け、玩具の消毒等の徹底をしている。	各部屋の温度環境が違う設備自体の改善必要。
適切な支援の内容	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	7		職員全体でモニタリング会議や支援計画の作成に関わっている。	日々のミーティングを、一日一時間程度確保したい。
	⑥	保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	6	1		昨年度オープンのため、今回が初めてとなる。今後保護者が閲覧できるよう待合室に掲示する予定。また、保護者の意見を踏まえて改善に努める予定。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		昨年度オープンのため、今回が初めてとなる。今後保護者が閲覧できるよう待合室に掲示する予定。また、保護者の意見を踏まえて改善に努める予定。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		第三者評価実施に関しては、今後の課題とする。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	スーパービジョン実施。療育に対してのフィードバックを行っている。	ペアトレーニングやABA等の外部研修がもっと必要。
業務改善	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		フィードバック時や面談等で保護者のニーズを把握し課題を共有後、支援計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			自閉症児に特化したもののため、発達年齢も含めて幅の広いツールが必要。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		そのお子さんの自立へ向けた課題設定が出来るように、優先順位を設けて設定している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		スモールステップで取り組むことが出来るようにしている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		職員全体で会議課題を共有し、プログラムを立案している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		お子さんが飽きのないように、療育内容を日々変えている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		保護者のニーズと発達段階を踏まえて行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼時にお子さんの様子を共有している。(20分程度)	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		終礼時には特に時間をかけて、お子さんの様子を共有している。(30分程度)	

関係機関や保護者との連携	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		誰が見ても分かりやすいよう記入の統一をしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		職員全体で行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	管理者または、チーフが参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	5		重症心身障害のお子さんの受け入れはしていないため、回答できず。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	5		重症心身障害のお子さんの受け入れはしていないため、回答できず。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	普段から幼稚園や保育園等とお子さんの様子を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	相談支援事業所の方が、モニタリングに来られる機会があるため、その際に情報交換を行っている。	来年度、療育センターの施設見学を予定している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6		保護者のニーズも低い為、今後検討する。
保護者への説明責任等	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	6		今後、地域の子育て会議等への参加を検討している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	4	オープン時に、保護者向けのセミナーを開催した。	継続的な研修の開催。ペアトレーニング等の研修が必要。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	2		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6	イベントとして、親子での英語リトミックを月に一度開催している	保護者会の開催を検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	2	保護者との面談の時間をとり、個別対応を行っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2	イベント等の行事開催予定をメール、掲示等により行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	1	書庫に施錠し、厳重に管理を行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1	保護者との面談時間をなるべく多く設定し、意思疎通や情報伝達を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5		地域住民をイベントに招待する等、地域との連携を強める活動を行っていく。

非常時の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	2	職員にはマニュアル配布、研修により周知を行っている。保護者に対してはマニュアル等の書類を掲示し、周知を行っている。	
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	定期的な避難訓練を行っている。	
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	2	契約時に書類記入、ヒアリングにより服薬、診断名を保護者に確認している。	予防接種、てんかん発作についても詳細を確認する。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	5	契約時に書類記入、ヒアリングによりアレルギーについて保護者に確認している。	医師による診断内容を詳しくヒアリングし、情報共有を行う。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	ミーティング、業務日誌への記入によりヒヤリハットの情報共有を行い、再発防止を目指している。	事例集を作成し、情報共有を円滑にする。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2	不定期で研修実施。個別の児童についての留意点もミーティングで情報共有を行っている。	定期的に研修の機会を確保する。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	2		

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。